

Buccal fat pad 減量手術に対する Patient-oriented outcome の検証

名倉 俊輔

Shunsuke Nagura

湘南美容外科 秋葉原院

【目的】

美容外科領域において、頬脂肪体 (buccal fat pad 以下 BFP) は減量手術の対象となる。口腔内アプローチで剥離範囲も狭いため、術後の社会復帰が早期に見込める。一方、Face-Q[®] は、新しい Patient-oriented outcome のツールとして独立した項目評価ができる標準化された質問票である。

今回我々は、BFP 減量術の患者満足度調査として、Face-Q[®] を実施した。

【方法】

対象は、2014年2月から2017年6月において、当施設で行なった女性 BFP 減量術患者とした。除外項目として、術後3ヶ月未満、不完全データ、研究参加拒否とした。手術時年齢、性別、および術後3ヶ月から26ヶ月における Face-Q[®] におけるスコアを検討した。

【結果】

40例のアンケートの回答を得た。平均年齢 29.5 歳 (± 5.2 歳) であった。Face-Q[®] の平均スコアは、小顔効果 3.4 (± 0.6)、若返り効果 3.0 (± 0.9)、笑顔効果 3.2 (± 0.8)、頬の輪郭の美しさ 3.2 (± 0.6)、写真効果 3.2 (± 0.8) であった。

【結論】

BFP 減量術は、Face-Q[®] における高い満足度を示した。手術動画、術前後の MRI 所見などを含めて考察する。